

SENAC - 1 が情報処理学会「情報処理技術遺産」に認定されました

大泉充郎初代センター長が NEC と共同で開発し、1958 年に完成した、東北大学最初の電子計算機であるパラメトロン計算機 SENAC-1 が、2009 年 3 月 2 日付けで社団法人情報処理学会の「情報処理技術遺産」に認定されました。

情報処理技術遺産は、先人の努力の結晶である情報処理技術関連の歴史的文物を将来に長く保存し、次世代人の学ぶよすがとして伝えることを目的に、その時代において獨創性または新規性が著しかったものや性能が格段に優れていたもの等の認定指針に該当し、現存する台数が極めて少ないもの、保存状態がよいもの等の基準を満たしているものを情報処理学会・歴史特別委員会が認定するものです。

SENAC-1 は、語長を 2 進 48 桁にして高精度演算を可能にする等、きわめて斬新な設計構想であり、当時の技術レベルを知る上でも貴重なものとして「情報処理技術遺産」に認定されました。

この情報処理技術遺産については、社団法人情報処理学会のホームページの情報処理技術遺産のページで紹介されています。

- ・情報処理技術遺産のページ

(<http://museum.ipsj.or.jp/heritage/index.html>)

- ・SENAC-1 のページ

(<http://museum.ipsj.or.jp/heritage/senac-1.html>)

○東北大学サイバーサイエンスセンター

大規模科学計算システム広報 S E N A C Vol. 42 No. 1 2009-1

(SX-9 導入披露&SENAC50 周年記念式典・講演会特集号)

(http://www.ss.isc.tohoku.ac.jp/refer/pdf_data/v42-1_ALL.pdf)

